

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動日 令和5年12月1日～令和6年 3月3日

環境省 3/13 報告

活動名	天霧山・二反地川・瀬戸内海・弘田川・さぬき富士・五岳山ビューポイント創出活動	
活動団体名	舟岡山未来プロジェクト活動組織(環境保全隊、子育て隊、舟岡山・弘田川ラグーン研究会) 「四国八十八ヶ所へんろ小屋プロジェクト」を支援する会香川支部(新規移設)	
活動目的	・50年前の舟岡山頂上(香川県仲多度郡多度津町)からの360度パノラマを取り戻すこと。 ・生物多様性に果たす里山の二次的な自然環境の役割を考え、里山の手入れを継承するシステムを考える。関係人口を増やす。活動組織の保全技術を高揚する。閉塞感の打破が必要。 ・登頂しやすい、陽のさす明るい森にし、こどもたちの森林体験の場の創出。	
活動内容	・舟岡山の地主個人の下草刈&活動組織+応援者による集団活動は月1～2回の割で継続中。 ・巣箱の設置、苗木(ヤマザクラ・エニシダ・マルバシャリンバイ:各20本)の植栽を多様な世代で行い、この地の未来への情景を話し合いました。€緑の募金による植樹標設置(未来につなぐ啓蒙) ・舟岡山頂上への緩やかな作業道をつくり、5歳児から80歳代の高齢者の方々に歩いて登頂していただき、頂上からの230度パノラマをみていただき、天霧山・二反地川・瀬戸内海・五岳山・ふるさとを見ていただきました。(むかしの、加富羅津域=ラグーン域の地の景観探訪もできます。) ・これまでの活動の輪を広げるため、香川県森林ボランティアネットワークに登録しました。 ・伐採・処理作業時の休息場の小屋にも使用している四国八十八ヶ所へんろ小屋プロジェクト 29号棟の柱材の維持保全として森色、川色・海色を採用し、内部に環境保全活動の掲示をしました。	
活動写真		
写真説明	手作り巣箱・苗木に未来の情景を込める、5歳児～80歳	森里川海と四国の巡のみち(啓蒙)
活動効果	・多度津高校木匠部、海外からの技能実習生が舟岡山保全活動日にお手伝いしてくださっています。 ・舟岡山に登頂する親子の方々、イベントと関係なく遊ばれる親子、小学生・中学生、旅人のお遍路さんが表れ始めました。地元から地域のシンボル舟岡山という声がではじめました。	
今後の展望	①環境保全隊にて、小さな荒廃した山の環境保全中の現状域0.48haの継続とともに、隣接する新域の活動の準備中です。€森林セラピー域(コナラ林のトンネル)・荒廃した竹林群への対応を考えています。変わらず残すものも大切にしたいと思います。農村の生業のある美の継承を考えます。 ②舟岡山・弘田川ラグーン研究会にて、この地の森・川・海のつながりを古代の歴史と関連付けて、道案内看板設置の準備中。(調査したふる里歴史は共有の情報として公開します。) ③川・海域での活動されている団体との連携を模索します。(カヤック隊の協働により次年度は、近郊の川との親水探検を予定しています。) ④新しいことも随時追加されれると思います。参加者が互いに教え・教えられる場としての活動内容につなぎたいと思います。これまで同様に企業人の「市民性」の協力を受け入れるとともに経済性を考えて行きます。ベース基地の現地再生の古民家棟(未来邸)は語りの場として稼働始めました。	